

科目名	灸実技 5							年度	2026
英語科目名	Moxibustion Practice 5							学期	前期
学科・学年	鍼灸科 3年次	必/選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	矢野恭一郎	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		

【科目の目的】
臨床医学特講 1. 2 で習得した、中医学による各論(各疾患)の知識を用い、提示された症例を検討し、診断力を養う。また、弁証論治の力、中医鍼灸の技術を習得する。

【科目の概要】

- ・弁証論治する力を獲得する。
- ・中医鍼灸の基本補瀉手技の修得する。
- ・中医鍼灸の吸角療法の技術を修得する。

【到達目標】
A. 弁証論治が出来るようになる
B. 中医鍼灸基本補瀉手技の技術が出来るようになる
C. 中医鍼灸の吸角療法の技術が出来るようになる
D. 中医学における、四診のうち、基本の舌診、脈診が出来るようにする
E. 中医学における、四診のうち、基本の経穴診が出来るようにする

【授業の注意点】
授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。
課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。

評価基準＝ルーブリック					
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	適格な弁証論治が出来る(100%)	90～80%程度の弁証論治が出来る	80～70%程度の弁証論治が出来る	70～60%程度の弁証論治が出来る	60%以下の弁証論治が出来る、または弁証論治が出来ない
到達目標 B	基本補瀉手技の技術を習得出来た(100%)	基本補瀉手技の技術を90～80%習得出来た	基本補瀉手技の技術を80～70%習得出来た	基本補瀉手技の技術を70～60%習得出来た	60%以下の基本補瀉手技の技術が出来る、または手技が出来ない
到達目標 C	吸角療法の技術を習得出来た(100%)	吸角療法の技術を90～80%習得出来た	吸角療法の技術を80～70%習得出来た	吸角療法の技術を70～60%習得出来た	60%以下の吸角療法の技術が出来る、または出来ない
到達目標 D	舌診、脈診を習得出来た(100%)	舌診、脈診を90～80%習得出来た	舌診、脈診を80～70%習得出来た	舌診、脈診を70～60%習得出来た	60%以下の舌診、脈診が出来る、または出来ない
到達目標 E	経穴診を習得出来た(100%)	経穴診を90～80%習得出来た	経穴診を80～70%習得出来た	経穴診を70～60%習得出来た	60%以下の経穴診が出来る、または出来ない

【教科書】
自作プリント、東洋医学概論 医道の日本社、東洋医学臨床論 南江堂、問診のすすめ 東洋医学術出版社

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】
出席状況(100%)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		灸実技 5			年度	2026
英語表記		Moxibustion Practice 5			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
2	中医鍼灸基本補瀉手技/吸角療法/舌診、脈診、経穴診	中医鍼灸基本補瀉手技と吸角療法の技術を習得する	1 鍼・基本補瀉手技 2 響きを得る 3 吸角療法	補瀉手技、鍼の操作が出来る 補瀉手技により、響きを得ることが出来る 吸角を的確に行うことが出来る	1	
3	中医鍼灸基本補瀉手技/吸角療法/舌診、脈診、経穴診	中医鍼灸基本補瀉手技と吸角療法の技術を習得する	1 鍼・基本補瀉手技 2 響きを得る 3 吸角療法	補瀉手技、鍼の操作が出来る 補瀉手技により、響きを得ることが出来る 吸角を的確に行うことが出来る	1	
4	基本の舌診、脈診、経穴診/それをもとにした臨床実践	基本の舌診、脈診、経穴診の診断力を身につける	1 舌診 2 脈診 3 経穴診	舌診による診断が出来る 脈診による診断が出来る 経穴診による診断が出来る	1	
5	各論/頭痛	頭痛の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
6	各論/耳鳴り・難聴	耳鳴り、難聴の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
7	各論/耳鳴り・難聴	耳鳴り、難聴の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
8	各論/咳嗽	咳嗽の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
9	各論/鼻閉鼻汁	鼻閉鼻汁の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
10	各論/食欲不振	食欲不振の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
11	各論/悪心嘔吐	悪心嘔吐の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
12	各論/腹痛	腹痛の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
13	各論/便秘・下痢	便秘・下痢の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
14	各論/便秘・下痢	便秘・下痢の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	
15	各論/症例検討	疾患の症例に対し、弁証論治が出来るようになる。	1 弁証論治 2 処方 3 処方の実践	症例に対し、的確な弁証論治が出来る 弁証に対し、処方を出せる 処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る	3	

評価方法：1. パフォーマンス評価、2. 口頭確認、3. 教員評価、4. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等